

令和2年度 第1回 藤沢市市民活動推進委員会 議事録

1 日 時

2020年(令和2年)6月11日(木) 午後6時00分～午後8時04分

2 場 所

本庁舎7階 7-1会議室

3 出席者

(1) 委員 12人

山岡委員長、坂井副委員長、阿部委員、大久保委員、鎌倉委員、木村委員、西上委員、林委員、原田委員、樋口委員、細沼委員、間山委員

(2) 市側 6人

藤本部長、福室参事、藤岡主幹、一瀬主査、浅野主任、緒方主任

(3) 報告者 1人

関野市民活動推進センター長

(4) 傍聴者 2人

4 議 題

(1) 藤沢市市民活動推進委員会正副委員長の選出

(2) 委員会概要について(年間スケジュール)

(3) 市民活動推進計画の取組内容(実施計画)について

(4) ミライカナエル活動サポート事業について

(5) 市民活動支援施設令和元年度事業報告について

(6) 公益的市民活動助成事業等の報告について

(7) その他

5 配布資料

(1) 藤沢市市民活動推進計画(2019年度～2025年)

(2) 藤沢市市民活動推進条例及び施行規則

- (3) 令和2年度第1回藤沢市市民活動推進委員会 次第
- (4) 第10期藤沢市市民活動推進委員会委員名簿
- (5) 資料1 藤沢市市民活動推進委員会概要
- (6) 資料2 令和2年度藤沢市市民活動推進委員会開催予定表
- (7) 資料3 市民活動推進計画令和2年度取組計画
- (8) 資料4-1 ミライカナエル活動サポート事業募集案内【募集再開(案)】
- (9) 資料4-2 ミライカナエル活動サポート事業の年間スケジュールについて
- (10) 資料4-3 ミライカナエル活動サポート事業年間スケジュール表
- (11) 資料5 令和元年度藤沢市市民活動支援施設管理運営事業報告書
- (12) 資料6 令和元年度藤沢市公益的市民活動助成事業及びまちづくりパートナーシップ事業提案制度事業報告資料
- (13) 参考資料 郷土づくり推進会議運用の手引き
- (14) 参考資料 新型コロナウイルス感染拡大に伴うアンケート調査報告書

6 開催概要

開会

○事務局より、今回の推進委員会は、4月に第1回、5月に第2回の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言を受け、いずれも中止となったため、本日が第1回となったことの説明があった。続いて、市長からの挨拶、委員の自己紹介、職員の紹介が行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題1 藤沢市市民活動推進委員会正副委員長の選出

- 委員の互選により、山岡委員が委員長として選出された。
- 山岡委員長の指名により、坂井委員が副委員長に選出された。
- 他の委員の承認を受け、委員長及び副委員長が決定した。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題2 委員会概要について（年間スケジュール）

- 事務局より、委員会概要について説明が行われた。
- 説明に基づいて、以下のとおり質疑応答・意見交換が行われた。

（山岡委員長）ただいまの事務局の説明について、ご意見やご質問等ございますでしょうか。初めての委員の方とか、もし何かあればと思いますが、よろしいでしょうか。

特にないようでしたら、以上で議題（2）「委員会概要について」を終了いたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題3 市民活動推進計画の取組内容（実施計画）について

- 事務局より、市民活動推進計画の取組内容（実施計画）について説明が行われた。

（山岡委員長）それでは、ただいまの藤本部長からのお話、その前の市民活動推進計画についてのご説明、両方合わせて、事務局のご説明について、ご質問やご意見などはございますでしょうか。

（原田委員）今ご説明いただいた後に、部長から2つのご提案があって、大事な視点だと思いました。私も今日の資料をいただいたときに、コロナのことがどこにも出てきていないので、どこまで話が進むのかなと思ったところがありましたが、今出てきたということで、ご意見というか、皆さんでご協議いただきたいなと思って申し上げます。

この3カ月間、推進センターとか市民活動プラザが閉じた中で、自粛と言って、なかなか家から出られない状況もありましたし、仕方がない部分は非常にあったと思うので

すけれども。ただ、学校も休校になる中で、その期間に、今、部長がおっしゃったような地域課題はなくなったわけではないと思うのです。むしろ増えた部分もあるかなと思っています。では、地域課題が顕在化する中で、行政なり市民活動が課題解決に向かえたかどうかという、向かえたところは非常に少なかったのではないかなと思うのです。

行政に至っても、公的な場所を閉じたがゆえになかなか活動できなかった、そういう民間のサークル団体もあると思いますし、NPOについても、先ほど子ども食堂というお話がありましたが、子ども食堂もほぼ動けなくなったと聞いています。不登校の団体ですとか、学習支援も細々と続けるしかなかった。仕方がなかったというふうには思うのですけれども。ただ、一方で、活動を新たにしたところもあるわけです。子どもたちに昼御飯がなくなることで、昼御飯を提供しようとか、経済的に困っていらっしゃる地域の方に対して食事を提供しようというところがぽつぽつ出てきて、活動し、そして今もお昼御飯、お弁当を飲食店が提供しようとしているなど、そういういろいろな例が出てきていると思うのです。

そういう意味で、先ほどの部長のお話の中では、コロナを念頭に入れた今後の活動というところで、感染しない、させないためのテクニックというか、そういうところをどうしようか。リモート会議とかそういうのも1つだと思うのですけれども、もう1つ大事なのは、コロナのような期間であっても、活動するためにはどうしたらいいのかというところをぜひ検証する作業が必要ではないかなと考えます。

推進センターのほうでアンケートをとっていただいている。今さっき見たばかりなので、中はちゃんと見られてないのですけれども、NPO団体などに対するアンケートをとっていただいているので、これは検証に値すると思います。そのほかにも、例えば行政として、子ども部とか、福祉部とか、教育委員会とか、かかわりのある部はいろいろあると思いますので、そのあたりに調査をかけていただいて、この3カ月間にやったこと、やれなかったこと、本来こういうことができたよねとか、そういうところのアンケートというか、とっていただけるといいかなと考えています。

計画もなんですが、先ほどご説明がある中で、ワークショップができないからオンラインでという話もありましたけれども、そういうテクニック論ではなくて、そもそも論なんですが、この計画に修正があってもいいのではないかな。もしくはコロナのこの3カ月間の現状を調査し、そこから、なぜ活動できなかったのか、できたのかを導き出して、今後の市民活動はどういうものが必要なのかというところを考えると、世の中が大き

く変わらなければいけない部分もあると思いますし、経済的なことや活動自体も変わっていく中で、昨年度コロナのない中で立てた計画をそのまま粛々と進めることに非常に違和感を感じるので、その点についてぜひご議論いただければと思います。

(山岡委員長) おっしゃるとおりで、私も実はそこは同じように感じております。平時に立てた計画ですから、平時に求められることがここには書かれているわけです。それを同じようにやったところで、求められているものが全く違うということがあるので、そこは臨機応変という言葉が適切なのかどうか分からないのですが、現場で本当に求められていることを的確にやっていく。例えば活動の場所みたいな話がありましたが、平時に使えるような場所は今使えないわけです。ソーシャルディスタンスがどうのと言われたりする。些末なことと言えばそういうこともそうですし、ほかにもたくさんあると思うのです。

このアンケートの中でも、例えばどう対応していいかわからない、対応のしようがないみたいな団体も結構ある。それはもう団体の活動が持続できないという世界ですから、そういうときに通常の支援をしてもしようがないわけです。そこは1つ1つの事業についてきちんと対応していくというか、適切な対応をしていく必要があるかなと思います。今のコメントについて、もし事務局から補足とかあればいかがでしょうか。

(事務局) 大変貴重な意見ありがとうございます。今おっしゃっていただきましたように、コロナの関係で検証すべき点はすごく多いと思うのです。その中から導かれたものをフィードバックするのは非常に大事だと思いますので、今おっしゃられたように、それをどのように反映してつなげていくのかといったところだと思うのです。

市民活動の支援といったところで言いますと、今のお話のように、こういう状況になったら、各団体は何をどのようにしたらいいのかわからないといったところがありました。そういったところをフォローしていくときに、どのようなことが必要なのかというのは、正直な話、その検証がされてこないとわからない点なのかなとも思います。今大事なのは、今の状況をきちっと把握して、その中から一定の分析をしたものをフィードバックすることなので、今、委員長や原田委員がおっしゃったようなことはすべきことなのかなと思っています。

(山岡委員長) その際、やはり現場だと思うのです。一々アンケートをとって集計して、それを整理してとかではなくて、迅速な対応が必要だと思うので、現場と密に連携してやっていくことがすごく必要だなと思います。せっかく林さんがおられますので、もし

そういう点からあれば。

(林委員) 開館してからまだ短いですが、今後ボランティアはさらに増えるというか、必要になってくるなというのは今回1つ思いました。

というのも、例えば学校ですと、今、分散登校のような形で、クラスが半分に分かれている中で、その分、対応しなければいけない大人が2倍になる。ただ、現状として、もう今年度、走り始めている中で、そんな簡単に先生を増やすことはできないので、そういうところはボランティアさんに手伝っていただくというのが実際にありました。

まだまだ対応できていないので、今回6月1日が月曜日でしたけれども、足りなくて困っているという相談が金曜日に来るみたいなことで結構慌ただしい中で進んでいったのですが、相談いただいたところは何とか対応することができました。これは私の事例ですので、六会のことになるのですが、ほかの地域はどうだったんだろうというのは気になる場所です。

今、検証という話もありましたが、そういうデータであり、実際のそういうご意見であり、何でもいいですので、市民活動はこんなことができるよという提案もすごく大事ですけれども、課題を見つけてそれを解決するというのがとても重要といたしますか、そちらのほうが多いと思います。私たちとしても何らかの形でそういう課題を知ることができればいいなと思っておりますので、そういうアンケートですとか、いろいろな方とお話しするとか、そういうことを進めていきたいと思っております。

(細沼委員) 今、林委員のほうから分散登校の話が出ました。現在私は、6月1日から明日まで、実は地区の小学校に、朝8時20分登校なんですけれども、12時半まで、医療従事者とか、お仕事をされて、学童までに少し時間がある子たちの見守りということで入らせていただいております。先ほどお話がありましたが、その前の週に教育委員会と青少年課のほうから地区に依頼があつて、湘南大庭地区に関しましては、青少年育成協力会のほうで事業としてお受けしています。今回は高齢者を省きまして、青少協の役員から青少年指導員、いろいろな若手で構成させていただいて、今3つの小学校に毎日メンバーが従事している状態です。

今回コロナということでの分散登校で、来週からは普通に午前中授業で、段階的に持っていくということですが、我々も今回、役員改選の年でもあつて、こちらの体制も整わないまま、顔合わせもできないままスタートして、ふだんからのコミュニケーションがいかにか大切なのかということが、重々、身に染みてわかりました。

若い世代なので、グループLINEで1週間前から綿密に計画しまして、6月1日から入っているのですが、各学校で対応が違ったり、通っているお子さんの状況とか、家庭の環境とかも全然違うので、私たちも今回本当に勉強になりました。

また、私の団体は任意団体で、今まではイベントを中心に、子どもの育成ということで、何百人規模のイベントで構成している事業だったのですが、これからコロナの感染の対策に向けて、イベントはほぼできないだろう。今年度は全くできない状態なので、子どもの育成に向けてこれをどうやっていけるのかということを考えていかなければいけないとずっと思っています。今年度は、来年度に向けて、団体として、子どもの育成、非行防止の対策を考えながら、これをどういうふうにやっていかなければいけないのかと考える年になってしまうかなと思っています。

市民活動と一緒に任意団体もそういう状況にありますし、自治会のほうも6月1日ぐらいからようやく始まりましたが、それまで総会もできず、ほぼほぼ書面表決ということで、どこの自治会も本当に大変だったと思います。

うちの自治会も先週ようやく引き継ぎが終わりまして、活動が開始になったのですが、今まで手渡しで行っていた回覧物とかも、手渡しせずに、全部ポストに入れるというか、最低限の決まりを守りながら、ソーシャルディスタンスを保ちながら、進めていかなければいけないかなと思っています。

また、ネットでできればいいのですけれども、地域は高齢化してしまっていて、ネットが見られない方もたくさんいて、まだ紙ベースの方が本当にたくさんいるので、その辺もあわせて考えていかなければいけないかなと思っています。この会議を通して私も地域として考えることがたくさんあるので、皆さんのご意見をいただきながら検討していただけたらいいなと思いました。

(山岡委員長) まさに今こういう状況の中で、どうすべきかという現場で試行錯誤されているということだと思うのです。その中から多分これをやらなければいけないということが浮き上がってくると思うのです。それは恐らくこの計画の中に書かれていない可能性があるのですが、そういうものは、行政の手続的にはどうかかわからないですけれども、必要があると思ったらパッとやるみたいなことが今は必要ではないかと私は思います。

(坂井副委員長) もう大体話が出尽くしたのかなと思うのですけれども、コロナの対応に関して、これを重要なテーマとして、推進委員会としても考えていかななくてはならないというのは共通の認識だろうと思うのです。

この推進ビジョン、推進計画を改定するのはどうかという方法論はあるのですけれども、この推進計画を改めてじっくり見ると、かなり普遍的な価値でまとめられているのです。例えば基本指針1「市民活動への参画促進」、2「市民活動を支援する体制の充実強化」、3「多様な市民活動の創出」というのは、コロナだからこれを変えましょうという話でもないのかな。むしろコロナという状況の中でこれを実現していくためには何が必要なのか、そういうことでいく可能性のほうが実現性が高いというか、いいのかなという気がいたしました。

その意味で、最初にご説明いただいた毎年の取組計画、ここにこのビジョンをコロナの中でも生かしていく具体の策は何かというあたりのところを中心に議論していったら、この委員会としてはいいのではないかと。最終的に議論した結果、やはりビジョンも変えたほうがいいよねということがあれば、それは変えればいいと思うのですけれども、そういうことかなと感じましたので、それだけ申し上げたいと思います。

(山岡委員長) 私もこっちはすごく大きな絵なので、別にいいと思うのです。やはりこっちだと思うのです。あと、議論という話があったのですけれども、この委員会自体は年に何回もやらないので、動きのほうが先に来ないといけないと思うのです。そういうものを踏まえてのこうしたほうがいいよねということはあるかもしれないのですけれども、どちらかという、そういう現場で起きていることに迅速に対応していく、こっちを変えていくみたいなやり方になるのではないかと思います。

(西上委員) 坂井委員の言われたことはもっともだなと思いつつ聞いていたのです。私は職業柄、省庁の計画を立てることもありますし、都道府県とか、基礎自治体のことも、現場のこともやったりするのですが、足元でやらなければいけないことは、多分やらなければならないと気づいた人がどんどんやっているという状況です。

あと、その状況を拾い上げて発信していくみたいな形で、コロナ時代にこれが正解というのは多分ないのですね。なので、こんな方法も、あんな方法もあるということをしらべます。それも、アンケートとか、丁寧にしらべますかどうかは、スピード感が求められることかもしれないので、そういうしらべの要るものと、起こっていることをそのまま発信していくみたいなことと、多分両方必要なのですね。その発信者には自治体もなり得ると思いますし、そういう指定管理を受けていたり、NPOとか、何らかの形で地域の信頼を集めている個人や団体が発信元にならなければいけないだろうと思うのです。

そのときに、発信者になり得る方々がちゃんと Zoom が使えるとか、インスタグラムが使えるとか、SNS やウェブ会議やその他情報発信する手段をしっかりと持っていなければ、その情報がなかなか行き渡らないと思うのです。それはインターネットの世界だけではなくて、紙も同じだと思いますし、紙でなければ情報が届きにくい方々もいれば、インターネットでないと届きにくい方々もいます。特に学生、10代後半から20代ぐらいになると、テレビや新聞はほぼ見ません。YouTube しか見ないとか、LINE しか見ないという世代もいるので、市民全体に何かを行き渡らせようとしたときに、いろいろな方法で、いろいろな情報発信ができるということを、藤沢市そのものが持っていなければできない。

市が持ってないと、NPO やそれに準じる地縁型の活動団体、町内会や老人会みたいなどころもなかなかそこに準じていけないと思いますので、まず市の中で、例えばきょうのこういう委員会を Zoom でやってみるとか。省庁の委員会は、ほぼ全て Zoom とかオンラインでやっています。なので、最近は省庁に会議に行くことがほぼないですが、そういうことに取り組んでみるということも必要かなと思います。

相談窓口みたいなことが進んでいる自治体は、基礎自治体のほうですけれども、電子自治体化をかなり進めています。コールセンターの手法を応用した窓口業務を、対面ではない方向に移行していく。あと、自殺対策に特化すると、LINE で相談窓口をつくるなど、そういう結構深刻な相談については、LINE のほうがしやすいという人たちもいたりします。

なので、多様な相談窓口を対面ではない方式で開いていく。それには何かモデルが1つないと、それを広げていくことはすごく難しいと思うので、せつかくこういう基本計画があるのだったら、その中の幾つかを対面ではない方向にシフトさせるとか、情報発信の幾つかをIT や SNS に特化してやってみるとか、そういうことをこの中に少しずつ入れ込んでいって、うまくいくこと、いかないことを検証するということがすごく重要ではないかと思っています。

そのIT化を進めようと思ったときに、市役所にタブレットが1台しかありませんとかいうと、そもそも役所の皆さんがそれを使いこなせないのに、市民のほうにやりなさいというのは難しい話だと思うので、まず皆さんがそういうのを持っているかどうか。持っていなかったとしても、個人的には持っているかもしれないので、それをうまい形で使えるようにできないかとか、そういうことも検討が必要ではないか。足元から言う

と、本当にそういう検討も必要ではないかと思います。なので、この会議をオンラインでできるというのをぜひ一度試しにやってみるというのもいいのではないかと思います。取りとめもないですが、以上です。

(山岡委員長) そうでしたら、これだけはこのことがもしあればおっしゃっていただきたいと思うのですけれども、ほかの議題もありますし、いろいろ議論も出たと思いますので、議題(3)についてはここで終わりにしたいと思うのですが、よろしいですか。

それでは、以上で議題(3)「市民活動推進計画の取組内容について」を終了いたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題4 ミライカナエル活動サポート事業について

○事務局より、ミライカナエル活動サポート事業について説明が行われた。

○説明に基づいて、以下のとおり質疑応答・意見交換が行われた。

(山岡委員長) それでは、今の事務局の説明について、ご質問やご意見はございますでしょうか。

(木村委員) 木村でございます。今日ちょっと遅刻しまして申し訳ございません。また2年間、どうぞよろしくお願いいたします。

こちらのコースの応募を再開されるということで、前期のときに、もしかしたら私は書面で何回か質問させていただいたかもしれないのですけれども、明確なお答えをいただけていないので、再度確認したいのです。協働コースのところ、行政との協働と行政以外との協働で、事業の期間に差を設けている根拠を改めてお示しいただけないでしょうか。行政との協働も、先ほど事務局の方の説明で、状況次第で1年で事業が終了することもあるといったお話もございましたけれども、どうして協働相手が違うことによって事業の期間に差が出ているのかというところは私の理解が及んでいないので、質問させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局) ご質問ありがとうございます。行政との協働が2年を基本とする、行政以外との協働が1年というところについて、1つは、行政以外との協働というのが、正直、非常に新たな試みということがございます。行政と市民活動団体さんとの協働というのは、今までもしてきたところですが、行政以外との協働のところは、ミライカナエル活動サポート事業を実施するに当たって、チャレンジングなところで取り入れて、皆様からのご意見もあつてトライしているところがございます。そういったところもあつて、

1年とするのが市民活動団体さんにとって一番いい形なのか、2年とするのが本当はいい形なのかというのは、検証が必要なのかもしれないなどは確かに考えております。

ただ、初年度やっていく中で、まずは1年間やり、2年目をつくらないといけないというのも、実は市民活動団体さんにとっては、もしかしたら、むしろハードルになるのかもしれないというところもございます。こういったご提案がこういった協働相手様との関係の中で出てくるのかといったところも、今年度ご応募いただく中で、こちらのほうでもニーズを捉えながら、2年度のほうがよいのではないかとといったことがあれば、それはまた見直さなければならぬとは考えております。

(木村委員) ご説明ありがとうございます。そういったチャレンジングで実質初めての試みということで理解をしております。であれば、もしあれでしたら、逆にそれぞれ差を設けるのではなく、同じにしてしまって、行政のケースでは、1年で終えるケースも出てくるでしょうし、逆に民間のほうで、2年間の協働をやったほうが、むしろ成果が出るのではないかとこのところであれば、2年間できる余地も残しておいたほうがいいのかないのかなと思います。

民間との協働の中で、1年やったら事業化できそうだというような状況が出てきたりして、もう自立してやってもらおうという判断もありかもしれませんけれども、それは事業の内容であったり、まさに出会ってみたいとわからない。こういった事業が来るかによってしかわかり得ない部分かと思っておりますので、ここは逆に両方とも少し広目に捉えられたほうがいいのか。それを実際やってみた上で、幾らでも条件を絞るということは、今後運用していく上でできると思っておりますし、それによる矛盾というのがないのかなというふうにも思っておりますので、そのあたりを最終的にご検討いただけたらと思います。

(事務局) 年度に関しましても、また年度以外のところでも、ミライカナエル活動サポート事業自体が新しい制度ですので、恐らく今年度やる中で、木村委員がご指摘いただいたこと、また、皆様に今年度いろいろ審査などにも積極的に関わっていただくので、次年度以降の見直しのために、今後もぜひご意見を頂戴できればと思います。

(山岡委員長) これをつくるときにも、やりながら見直していきましようという話はあったので、ご指摘のあったところは、私も余り十分記憶になくて、議論が尽くされてなかったかなとは思っておりますので、また見直しをかけていければと思います。

(林委員) 同じく協働コースについて、私も去年どんな議論がされていたか忘れてしまっ

たところがあるのですけれども、行政との協働を2組、それから民間同士といいますか、団体あるいは企業との協働を1組というふうになった理由は何だったのでしょうか。

これは完全に感覚の問題ではあるのですが、今までに例えば公益的市民活動助成事業とかで選ばれた団体も、実は協働して、中で団体同士が連携してやっていた事業はあったのではないかと考えています。今回このように協働事業として、2つの団体が協働してやっているんだと言ったほうが、今までは本当に個人レベルで協力していたので、名前が出なかった団体はあると思うのですけれども、2つそろって事業の採択団体として選ばれるとなると、その団体の中でも助成金を取って動いているということになりますし、そういうことで民間同士のほうが増えてもいいのかなと思ひまして、その分け方について、今後も変更の可能性はあるかということも含めてお聞きしたいと思ひます。

(事務局) ご意見ありがとうございます。先ほどの説明にもありましたように、若干お試しの部分がありまして、どうしても行政のほうで予算を組んでいくという部分がありまして、実績がない部分は、最初から幾つもとというのがなかなか難しい部分もございます。

なので、今回新規に取り組む部分ということで、まずは1つの団体というところですが、先ほど来のお話にもありましたように、これは一度始めたら、未来永劫この形で一切変えませんという話ではございませんし、我も我もということで手を挙げていただける団体が多いようであれば、それをもとにどんどん拡充はしていける事業だというふうには考えておりますので、とりあえず今回はそういった趣旨で2団体、1団体という選び方、予算のつけ方でやったというふうにご理解いただいて、まさに応募結果に応じまして、委員の皆様からまた意見をどんどんいただければと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

(山岡委員長) 私から1点です。先ほど来お話があった現状のコロナのことを踏まえてこの事業を進めていかなければいけないと思うのです。そのときに、審査の評価項目の中で「事業の継続性」と「成果目標の設定」というのがあるのですが、どういう申請が来るかはわからないのですけれども、もしかすると継続性云々ではなくて、今とにかくやらなくてはいけないからやっているみたいな申請とかも、ひょっとしたらある可能性があると思うのです。今まで起きたことがないことだから、そもそも目標の設定も曖昧にならざるを得ないとか。だから、もしコロナ対応をちゃんと支えていくということを確認にするのであれば、そういう出てきたものに応じて、この評価項目については、多少柔軟に扱っていくことが必要かなとは思ひます。ただ、ここで修正する必要があるとか

うのは正直ございます。

ただ、5月23日から6月5日で実施したオンライン講座ですが、推進センターとしても初めてのオンラインでの開催ということでしたが、今までの講座に参加してなかったようなかなり新しい層ですね。内容が「小さな組織のTwitterコミュニケーション」ということです。先ほどもご意見があったように、新型コロナウイルスの感染が拡大している中でも、団体がどう動くかというところに主眼を置いて、NPOサポートセンターさんとのご相談の中で、講座を選んだ結果としては、私どもの感触としては、そこで動こうとしている人にうまく届いたのかなというところがあります。参加人数が合計で25名でしたので、推進センターの会議室で言うと、いっぱいの状態ですね。どちらかというと、今そこに注力してこれたわけではないのですけれども、できる限りやった中では、私どもとしてはそこが精いっぱいだったかなというところではあります。

(原田委員) この3カ月間何もやってなかったのではないかとやっているわけではなくて、この3カ月間のいろいろな検証を、いろいろなところがすべきだと思っているのです。ずっとウィズコロナかもしれないし、もっとすごい感染症が来るかもしれないし、藤沢に地震が来るかもしれないですね。そういうときのために、いろいろな課題に柔軟性や機動力を持って対応できるように、それこそ若い方々がいらっしゃるのだから、そういう方々のNPOをぜひ支援していただきたいなと思っているのです。今後の計画も、改定というか、柔軟に対応されると思うので、そういう視点でぜひやっていただきたいなということでご意見を申し上げました。

(西上委員) WEB 会議体験会はめちゃくちゃいいですね。これは相性がすごくあるのです。ウェブ会議のツールも、Zoomとか、Google Meetとか、Teamsとか、いっぱいありますよね。こういう系統の人たちはそれが使いやすいとか、こういうコミュニティの人たちはこれが使いやすいとか、Googleでやる人たちは、ミーティングはGoogleでやるけれども、情報発信するときはFacebookのほうがいいのか、会議するツールと情報発信するツールとその団体の相性がめちゃくちゃあるのです。

それがもし一歩間違えると、炎上しやすいことが、会議も炎上するし、情報発信した後も炎上するみたいなこともあるのです。なので、団体さんのカラーによって、おたくはこれではなくて、もしかしたらウェブ会議のツールとしてはこっちのほうがいいのかもありませんよとか、発信するときはこっちのほうがいいのかもありませんよみたいなことも、ITの知識を皆さんお持ちのようですから、そういうことがさらにアドバイスとしてで

きるとよりいいのかなと思っています。

私の会社が横浜市の障害者系の人たちの支援を3年ぐらいやっていたのですが、コロナより前から Zoom でミーティングをよくやっていたのです。障害には知的もあれば身体もあれば精神もありますよね。精神の人たちは特に天気が悪かったりすると、その日の会議に来られなかったりするのです。でも、Zoom のミーティングだと参加できるわけです。家にいながら参加したり、あと、きょうは顔が映るのは嫌だと思ったら、映像を消せばいいわけです。

そういうことを障害分野はコロナ前からもやってきていたりするので、地域の中でそれを使いこなしている障害者の方も結構いるかもしれないですよ。そういう人たちがこういうときに教える側として出てきたりすると、自分もできるかもしれないと思う人たちがふえるかもしれないので、相性のことと、あと、教える側の人たちのバラエティーさというか、多様性を担保するというのが、すごくピアの状態になるというか、教える側が多様であればあるほど、ピアカウンセリングになって、よりよい事例が生まれやすくなるので、その両方をぜひ考えながらやっていただくことで、こういうのをどんどんふやしてもらえるといいなと思っています。

あと、行政職員のためのウェブ会議の使い方も必須ではないですかね。しつこくて済みません。藤沢市に iPad が1台しかないと聞いたのです。これは言うてはいけなかったかもしれない。行政職員のためのセキュリティがしっかりしているウェブ会議のツールはどれなのか。iPhone との相性のいいものとかもありますよね。なので、行政職員のための講座みたいなこともやったら、指定管理者としてはすごくいいと思います。

余計なアドバイスですが、以上です。

(林委員) 今後どんなことをやっていきたいかということで、これは分館、プラザのほうの話ではあるのですが、1年間の利用者人数が、去年とほぼ同じペースでした。休館中があったので、実際には減ってしまっているのですけれども。一方で、利用件数のほうは、その期間があったにもかかわらず、ふえたのです。なので、1件当たりの利用人数が物すごく減ってきましたし、少人数でご相談いただくというのがふえてきました。

そういう傾向が途中からわかっていたのと、さらにツールとして、もっと話しやすいツールがあれば、より密な相談ができるのではないかと考えまして、昨年、LINE の仕事版、LINE WORKS というものを導入しようということで、実際に会社にかけて手を打っていきました。それを入れていただいた団体に関しては、このコロナ中も密な

やりとりができました。時間が足りなくて浸透させ切れなかったなというところはあるのですけれども。

先ほどから今後オンラインツールという話がある中で、多くのツールは、そのツールの会員登録をしなければいけないというのがあって、どのツールを使うか理解した上で、実際に使う方がみんな登録する。もちろん登録の必要がないツールもあると思うのですが、オンラインツールをやるといいよねということ以上に、全員で使うというのは結構面倒くさいハードルがあったりするかなと思いますので、そういう細かい支援をやっていききたいなと思っています。

(山岡委員長) ほかはいかがでしょうか。

いつも丁寧な報告書をありがとうございます。毎年すごく充実したデータをきちんと蓄積してくださっているので、これから藤沢市の市民活動を考えていくときに、いつも参照できるものになっているかなと思います。

以上で議題（５）「市民活動支援施設令和元年度事業報告について」を終了いたします。

予定の８時まであと２分となってしまいました。また例によってなんですけど、もう１個議題があるので、申しわけないですけども、会議を多少延長させていただくことについてご了承いただけますでしょうか。毎回こんな感じになって申し訳ないです。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題６ 公益的市民活動助成事業等の報告について

○事務局より、公益的市民活動助成事業等の報告について説明が行われた。

○説明に基づいて、以下のとおり質疑応答・意見交換が行われた。

(山岡委員長) それでは、今の事務局の説明について、ご質問やご意見はございますでしょうか。

時間が押しているということもあって、もしかしたら皆さんご遠慮されている可能性もありますが、これは報告ですので、もし何かご質問とかがあれば、個別にさせていただければということによろしいですかね。

以上で議題（６）「公益的市民活動助成事業等の報告について」を終了します。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題７ その他

○事務局より、次回の委員会の日程について説明が行われた。

(山岡委員長) これで本日の日程が全て終了しました。以上をもちまして第1回藤沢市市民活動推進委員会を閉会いたします。本日は大変お疲れさまでした。

午後8時4分 閉会